

科目名称：	工芸論	
担当者名：	権田 宜子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
<p>石川県は京都と並んで工芸の技術的水準が高い地域であり、数多くの名品や名工を輩出しています。しかし、その名工たちの作品がありながら、『工芸』作品としての特質を理解するまでに至っていないのが現状です。 この授業においては、講義や演習だけでなく美術館での作品鑑賞もあり、より身近に『工芸』を感じられるための導入とし、知識を得て理解を深めることを目指します。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>この授業においては『工芸』を体験的に学習することを主体としており、そのために作品鑑賞だけでなく、外部講師による工程説明や実際に演習として作品に取り組むことから、『工芸』を理解することで視野を広げ、豊かな感受性を育むことを授業の目標とします。</p>		

美術学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、主に基礎教育科目により、基礎知識を修め幅広い教養を身につけ、多様な文化や考えに対応できる。	
DP (2)	主に専門科目により、美術に関する理解を深め豊かな表現力を身につけ、社会の一員として貢献できる実践力を身につけている。	○
DP (3)	多様な社会に対応できるように、自己表現を深化させながらも他者の意見を尊重し、様々な表現を受け入れる豊かな人間性をもっている。	
DP (4)	様々な課題に取り組み、応用力と創造力を身につけて、その中から自己の個性を磨き表現できる。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	ルーブリック	合計
美術DP (1)					0
美術DP (2)			80	20	100
美術DP (3)					0
美術DP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》加賀友禅染色工房（有）千紅	《経験年数1》8年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
理解力	工芸作品について理解し、見たりするようになり、話をすることができる	工芸作品について理解し、見たりするようになったが、話をするまでに至っていない	工芸作品については理解はしたが、話をするまでに至っていない	工芸作品についてあまり知らない
知識	工芸の種類や技法を詳しく理解することができた	工芸の種類や技法を知り、どのようにつくられているか少し知ることができた	工芸の種類は知っていても、どのように作られているかは知らない	工芸の種類やその技法を知らない
探究心	工芸を実際に鑑賞し、作品が出来上がるまでの技術の工夫や創造力を感じる	工芸を実際に鑑賞し、作品が出来上がるまでの創造力を感じる	工芸を実際鑑賞し、様々な工芸ができるまでの課程を知った	工芸を実際鑑賞しても、様々な工芸ができるまでの課程を知らない
意欲	工芸について興味を持ち、様々な場所で、手に取りたいと思うようになった	工芸について興味を持ち、様々な場所で気になるようになった	工芸について興味を持つことができたが、授業だけで充分である	工芸は難しそうである

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 ガイダンス／工芸とは何か(電子黒板)	シラバスに目を通し、この講義展開から工芸について教科書を読んでおく。	40分
第2回 陶芸／九谷焼① 九谷セラミック・ラボ、県立九谷焼技術研修所見学	教科書にある『陶芸』の項目を通読し、陶芸に関することを調べておく。	40分
第3回 陶芸／九谷焼②(授業内でグループワーク)	教科書にある『九谷焼』の項目を通読し、九谷焼に関する作品を調べておく。	40分
第4回 日本伝統工芸展の出品作に関する解説ビデオ鑑賞	気になった作品をより理解できるよう教科書を通読し、作品解説からまとめておく。	40分
第5回 日本伝統工芸展 石川県立美術館にて作品鑑賞	作品をより理解できるよう教科書を通読し、気になった作品を小レポートにまとめる。	40分
第6回 陶芸／九谷焼③(授業内でグループワーク)	九谷焼を仕上げるために使われる道具調べ、その使い方についてまとめておく。	40分
第7回 漆芸／加賀蒔絵①	教科書にある『漆芸』の項目を通読し、漆芸に関することをまとめておく。	40分
第8回 漆芸／加賀蒔絵②(授業内でグループワーク)	教科書にある『蒔絵』の項目を通読し、蒔絵に関する作品を調べておく。	40分
第9回 漆芸／加賀蒔絵③(授業内でグループワーク)	漆芸を仕上げるために使われる道具調べ、その使い方について調べておく。	40分
第10回 本学卒業生の工芸家による作品解説・鑑賞方法	作品をより理解できるよう教科書を通読し、工芸の分野についてまとめておく。	40分
第11回 本学卒業生の工芸家による作品解説・鑑賞方法	作品をより理解できるよう教科書を通読し、工芸の分野についてまとめておく。	40分
第12回 課題作品発表会／《用の美》についてグループディスカッションする	これまでに取り組んだ作品を発表できるよう課題をやっておく。	40分
第13回 染織／加賀友禅／着付け(授業内でグループワーク)	教科書にある『染織』の項目を通読し、藍染めについて調べておく。	40分
第14回 石川県在住・工芸家の工房を訪問し作品鑑賞	訪問先の作家の代表作品をより理解できるよう教科書等で調べておく。	40分
第15回 伝統工芸に関するレポート課題(授業内でグループディスカッション)	伝統工芸の今後について自分の意見を課題プリントにまとめる。	40分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。  
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

#### 成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。  
事前事後学修した課題作品 40%、レポート課題内容 40%、授業への熱意・関心度 20%

#### 課題に対するフィードバック

学習成果についてルーブリックをとり、レポートとともにフィードバックする。

#### 教科書・参考書

『伝統工芸ってなに?』 芸艸堂 公益社団法人日本工芸会東日本支部編